

長野県塩尻市 塩尻MaaS・自動運転協議会

令和6年度 第1回

2024年7月31日 14:00~16:00

議事

地域コミッティ組成及び令和6年度事業について

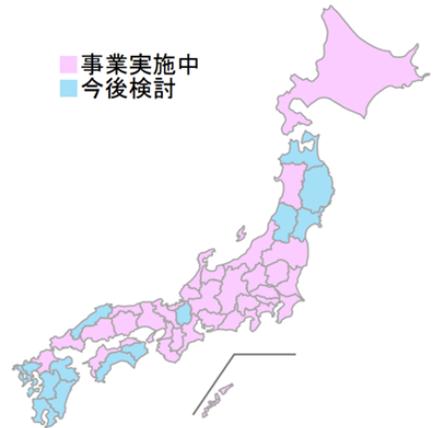
レベル4モビリティ・地域コミッティ

レベル4モビリティ・地域コミッティ

レベル4モビリティ・地域コミッティについて

レベル4自動運転サービスの現状

- 全国25年度の50カ所程度、27年度の100カ所以上サービス実装という目標達成に向けて、取組の加速が求められる
- そのためにも、各地域の受容性の向上と、透明性と公平性を確保しつつ許可等の手続きを迅速に進める必要がある

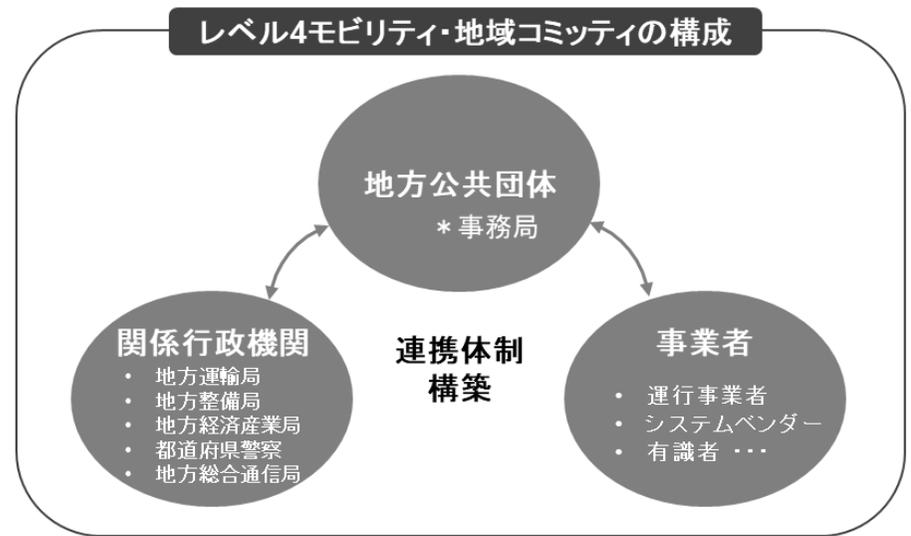


全国都道府県
L4サービス実装箇所

出典: 23年12月20日 デジタル行財政改革会議(第3回)
資料3 国土交通大臣提出資料

レベル4モビリティ・地域コミッティの目的

- 地域コミッティは、地方公共団体・関係行政機関・事業者による綿密な連携体制を構築することで、地域の受容性醸成を図りつつ手続の透明性・公平性を確保し、各地のレベル4自動運転サービスの実現を加速する



※ 地域コミッティ設置は国土交通省所管「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（以下「自動運転社会実装推進事業」という）への申請の必要条件とする。
※ 自動運転社会実装推進事業への申請をしない場合においても、地域コミッティの設置は可能とする。

レベル4モビリティ・地域コミッティ

地域コミッティ構成員の役割

- ✓ 事務局は会議開催に伴うロジ対応の他、会議の議事概要について構成員へ共有
- ✓ 構成員は会議出席の他、地方自治体等からの質疑・要望等に対応

地域コミッティ構成員		自動運転移動サービス実装における役割	地域コミッティ運営における役割
主宰者	地方自治体	レベル4自動運転の社会実装に向けた 全体統括	地域コミッティ設置(設置要綱作成・構成員調整) 会議主催(日程調整、資料作成、会議報告、報告書)
必須構成員	地方運輸局	レベル4車両認可に向けたサポート	会議日程調整、会議出席、結果報告サポート
	地方整備局	走行環境整備に係るサポート	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	地方経済産業局	モビリティ産業・地域経済活性化に係るサポート	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	都道府県警察	特定自動運行許可・道路使用許可に係るサポート	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	運行主体	運行に係る事項の検討・推進	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
任意構成員	都道府県 (市区町村コミッティの場合)	県内の交通政策のとりまとめ	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	地方総合通信局	求められる通信環境等についてサポート	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	関係事業者	求められる領域についてL4実装推進	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	協力団体	求められる領域についてL4実装サポート	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告
	...	(必要な関係者を地方自治体が選定)	会議出席、必要に応じて資料作成・会議報告

レベル4モビリティ・地域コミッティ

地域コミッティ 年間スケジュール

- ✓ 地域コミッティ設置は、自動運転社会実装推進事業への申請の必要条件
- ✓ 原則、地方公共団体は事業開始前に地域コミッティを設置



レベル4モビリティ・地域コミッティ

- 協議会には連携事業者、地域交通事業者、タクシー会社、大学、行政機関、地元自治会が参画
- 長野県警をメンバーへ移行することでレベル4モビリティ・地域コミッティの構成員(案)は充足
- 4/3にコミッティ設立を各社へ共有、同日付で設立済として国交省へ報告

所属

アルピコ交通株式会社
JR東日本株式会社 長野支社 地域共創部 地域連携ユニット
美勢タクシー株式会社
平成交通有限会社
アイサンテクノロジー株式会社
ネクスト・モビリティ株式会社
三菱商事株式会社 自動車・モビリティグループ モビリティ・サービス部
EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社
株式会社MaaS Tech Japan
信州大学
信州大学
信州大学 工学部 水環境・土木工学科
警察庁 交通局交通企画課自動運転企画室
経済産業省 関東経済産業局 産業部 製造産業課 航空宇宙・自動車産業室
国土交通省 北陸信越運輸局 自動車技術安全部
国土交通省 北陸信越運輸局 交通政策部 交通企画課
総務省 信越総合通信局 情報通信振興課
長野県 企画振興部 DX推進課
長野県 企画振興部 交通政策課
国土交通省 関東地方整備局 長野国道事務所（未来技術社会実装事業 現地支援責任者）
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所
長野県 松本建設事務所 維持管理課
長野県県警
塩尻市
塩尻商工会議所
塩尻市振興公社
大門地区
高出地区

オブザーバー

塩尻警察署交通課

会議体整理

- 令和2年度に組成した「塩尻型次世代モビリティサービス推進協議会」を引継ぎ、令和3年度に各モビリティサービスの評価・検証を行う組織として「塩尻MaaS自動運転協議会」を組成
- 令和4年度に内閣府未来技術社会実装事業の採択を受け、同事業の現地支援体制(地域実装協議会)を兼ねている
- 今年度からはレベル4モビリティ・地域コミッティも兼ねて開催

「塩尻MaaS・自動運転協議会」 (塩尻型次世代モビリティサービス推進協議会)

従前の塩尻MaaS・自動運転協議会

NO	所属
1	アルピコ交通株式会社
2	J R東日本株式会社 長野支社 総務部
3	美勢タクシー株式会社
4	平成交通有限会社
5	アイサンテクノロジー株式会社
6	株式会社ティアフォー 事業本部
7	損害保険ジャパン株式会社 長野支店 松本法人支社
8	KDDI株式会社 経営戦略本部 次世代基盤整備室
9	ネクスト・モビリティ株式会社
10	三菱商事株式会社 自動車・モビリティグループ モビリティ・サービス部
11	株式会社MaaS Tech Japan
12	社会医療法人財団慈泉会 相澤病院
13	信州大学
14	信州大学
15	信州大学 工学部 水環境・土木工学科
16	経済産業省 関東経済産業局 産業部 製造産業課 航空宇宙・自動車産業室
17	国土交通省 北陸信越運輸局 交通政策部 交通企画課
18	長野県 企画振興部 DX推進課
19	長野県 企画振興部 交通政策課
20	国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 計画課
21	長野県 松本建設事務所 維持管理課
22	松本市 総合戦略局 DX推進本部
23	塩尻市
24	塩尻商工会議所
25	塩尻市振興公社 (KADO)
26	大門地区
27	高出地区

未来技術社会実装事業 地域実装協議会構成員として参画

- ✓ 警察庁交通企画課
- ✓ 国土交通省北陸信越運輸局自動車技術安全部
- ✓ 国土交通省関東地方整備局長野国道事務所

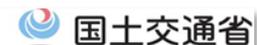
レベル4モビリティ・地域コミッティ 構成員として参画

- ✓ 総務省信越総合通信局
- ✓ 長野県警察本部交通企画課

自動運転

- ✓ 令和4年度から通称「自動運転実証調査事業」として実施。本市は過去2年連続採択
- ✓ 令和6年度申請書では自動運転レベル4許認可時期やレベル4に向けた課題・対策の明記が求められた

自動運転社会実装推進事業



- 地域づくりの一環として行うバスサービス等について、自動運転レベル4の社会実装・事業化を後押しするため、地方公共団体が実施する自動運転の取り組みを支援。

<対象事業者（イメージ）>

地方公共団体（都道府県・市町村）及び道路運送事業者等

- ※ 将来的に「レベル4」の自動運転移動サービスの実現が見込まれる者であること。



○事業のポイント

- ・ 自動運転による地域モビリティの構築、及び社会受容性の向上
- ・ 地域に根ざした自動運転の通年運行
- ・ レベル4の実現に向け、運転者が不在となることを前提とした技術の磨き上げ 等



<対象事業のイメージ>

- ・ 専用道などを用いたBRT自動運転移動サービス
- ・ 定時定路線型の自動運転移動サービス
- ・ 特定のポイント間で運行するデマンド型の自動運転移動サービス 等

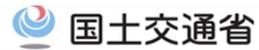
<補助対象経費>

- ・ 車両改造費
- ・ 自動運転システム構築費
- ・ リスクアセスメント、ルート選定等の調査費 等

国土交通省自動運転社会実装推進事業

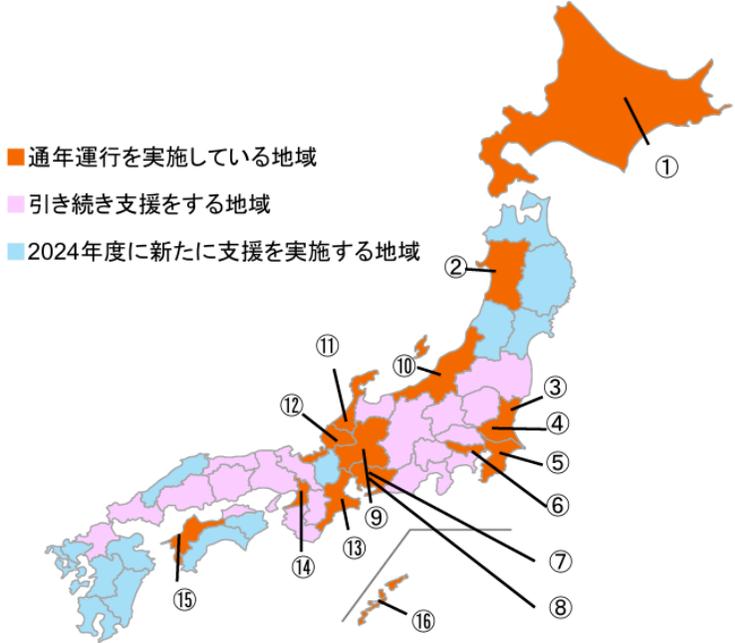
- ✓ 特定自動運行及び事業性確保検証実証を提案し、採択
- ✓ 国土交通省資料では47都道府県で事業実施、通年運行自治体をクローズアップ

自動運転に係る全都道府県での初期投資支援に係る取組



別紙1

- 補助事業等を通じて、5月1日時点で、16カ所で一般道での通年運行事業を実施。
- 今年度においては、これまでの継続事業を含め、全都道府県で計99件を採択。(内26件は通年運行を予定。)
- 一般道の自動運転について、2024年度に約100カ所で計画・運行を行い、2025年度に全都道府県での通年運行の計画策定又は実施を目指す。
- この事業を通じて、全国での自動運転の社会実装・事業化を推進する。



小型EVバスを用いた自動運転

- ▶ 特徴・・・混在空間、40km/h以下
- ▶ 通年運行実施自治体
 - ⑤千葉県横芝光町
 - ⑪石川県小松市
- ▶ 2024年度採択件数 33件



小型カートを用いた自動運転

- ▶ 特徴・・・交通量の少ない又限定空間を走行、12km/h以下
- ▶ 通年運行実施自治体
 - ②秋田県上小阿仁村
 - ⑦愛知県春日井市
 - ⑫福井県永平寺町
 - ⑭大阪府河内長野市
 - ⑯沖縄県北谷町
- ▶ 2024年度採択件数 7件



ハンドルがない車両を用いた自動運転

- ▶ 特徴・・・混在空間、12km/h以下
- ▶ 通年運行実施自治体
 - ①北海道上士幌町
 - ③茨城県常陸太田市
 - ④茨城県境町
 - ⑥東京都大田区
 - ⑧愛知県日進市
 - ⑨岐阜県岐阜市
 - ⑩新潟県弥彦村
 - ⑬三重県多気町
 - ⑮愛媛県伊予市
- ▶ 2024年度採択件数 28件



※⑫はレベル4、それ以外はレベル2からレベル4へ順次移行を予定している案件

✓ 7/4付けで国交省事業採択に係るプレスリリースを发出



いきいき満彩 信州しおじり

2024年7月4日
長野県塩尻市
一般財団法人塩尻市振興公社
アルピコ交通株式会社
アイサンテクノロジー株式会社
A-Drive 株式会社
EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社
株式会社ティアフォー
損害保険ジャパン株式会社
日本信号株式会社
三菱電機株式会社
KDDI 株式会社

【長野県塩尻市】地域公共交通確保維持改善事業費補助金 (自動運転社会実装推進事業) の採択について

長野県塩尻市(市長:百瀬 敬、以下 塩尻市)、一般財団法人塩尻市振興公社(理事長:塩川 昌明)、アルピコ交通株式会社(本社:長野県松本市、代表取締役社長:小林 史成)、アイサンテクノロジー株式会社(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:加藤 淳)、A-Drive 株式会社(本社:神奈川県横浜市、代表取締役社長:岡部 定勝)、EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:近藤 聡)、株式会社ティアフォー(本社:愛知県名古屋市、代表取締役社長:加藤 真平)、損害保険ジャパン株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:石川 耕治)、日本信号株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:塚本 英彦)、三菱電機株式会社(本社:東京都千代田区、執行役社長:漆間 啓)、KDDI 株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 CEO:高橋 誠)は、国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業費補助金(自動運転社会実装推進事業、以下本事業)に応募し、採択されましたのでお知らせします。本件は、2022年度、2023年度に続き3度目の採択です。

3 実証事業への参画企業

団体・組織名	役割
長野県塩尻市	事業全体の企画、運営管理、進捗管理、参加団体相互の調整
一般財団法人塩尻市振興公社	代表団体業務補助、フィールド調整、イベント実施 他自動運転実証・モビリティサービス事業・core 塩尻との連携調整
アルピコ交通株式会社	自動運転車両ドライバー及び遠隔監視
アイサンテクノロジー株式会社	自動運転実証実験の統括、特定自動運行に向けた申請支援、高精度 3次元地図の製作
A-Drive 株式会社	特定自動運行計画作成サポート・関係者調整
EY ストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社	収入拡大策検討、実施
株式会社ティアフォー	走行環境付与に向けた申請、システム開発
損害保険ジャパン株式会社	自動運転専用保険の提供、走行前の安全確保に関する助言、緊急時体制構築支援
日本信号株式会社	自動運転車両への信号機情報提供
三菱電機株式会社	WEB 予約システム及び運行管制システムの提供 特定自動運行計画作成サポート
KDDI 株式会社	自動運転ルート及び遠隔監視室の通信調査・通信提供
名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ社会研究所	高度無人自動運転の実装に向けたシステム開発や実証期間中における安全対策等助言
三菱商事株式会社	塩尻 MaaS 事業との連携検討
株式会社カインズ	小売連携
株式会社デリシア	小売連携
セイコーエプソン株式会社	テストコース環境提供

4 問い合わせ先

- (1) 塩尻市 商工観光部 先端産業振興室(百瀬亮)
電話:0263-52-0280 E-mail: sentan@shiojiri.com
- (2) 一般財団法人塩尻市振興公社(宮坂歩)
電話:0263-51-0802 E-mail: kousha@shiojiri.com

国土交通省自動運転社会実装推進事業

概要

塩尻駅⇔塩尻市役所間において、一般公道混在空間の自動運転レベル4運行（特定自動運行）を実施する。持続可能な自動運転サービスを目指し、大手小売店や地域商店と連携した収益拡大施策を実施し、事業性確立を目指す。

実施期間：令和6年6月～令和7年1月

試乗期間：令和6年12月及び令和7年1月に各2週間程度実施予定

実施内容



ティアフォー製Minibusを用いた一般公道混在空間におけるレベル4走行



アルピコ・KADOによるレベル4運行体制構築

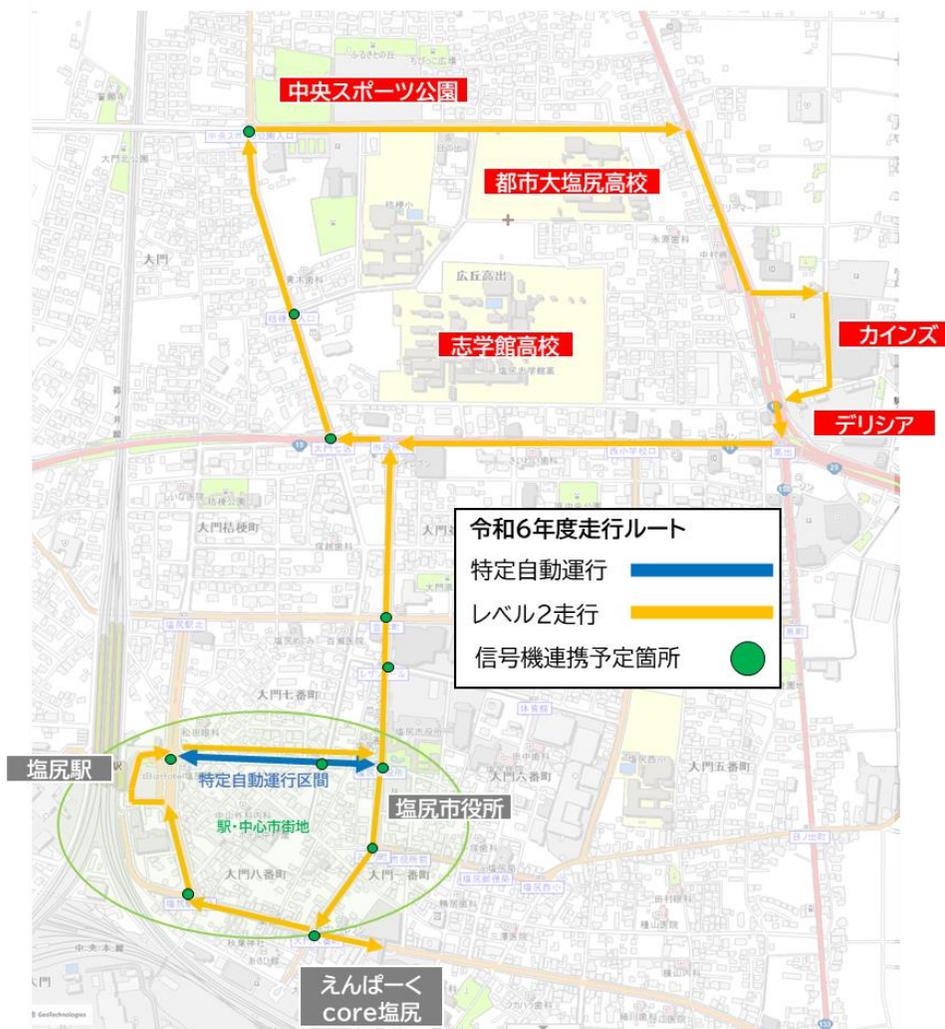


小売連携・寄付金・広告・協賛金による事業性確立検証



信号機連携

走行ルート・運行時間

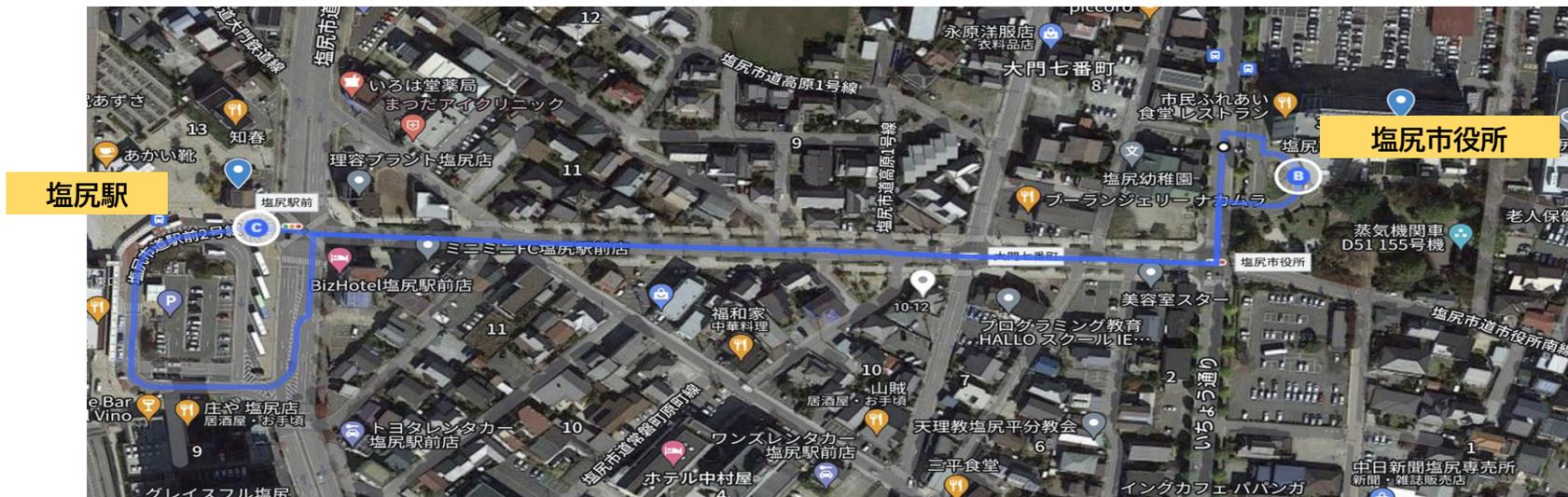


令和6年度走行ルート
 特定自動運行 ————
 レベル2走行 ————
 信号機連携予定箇所 ●

特定自動運行

運行経路

- 経路: 塩尻駅発、塩尻市役所ロータリー経由、塩尻駅着
- 片道約500m、往復約1km



走行スケジュール

運行開始月: 12月(車両側認定状況・特定自動運行許可申請状況によっては後ろ倒し)
降雪の影響により、1~3月は運休予定
走行日: 毎週金、土曜日(週2日)
走行時間帯: 9時~15時

運送対象物

人のみとする

運賃

令和6年度: 無償
(令和7年度以降有償化検討)

長野県塩尻市 塩尻MaaS・自動運転協議会 令和6年度第1回

定員

14名
(乗務員除く)

運行条件

着座前提

特定自動運行ルート上 路上ペイント

- 特定自動運行ルート上の発着地を塩尻駅及び塩尻市役所ロータリーに設定予定
- 同箇所における路上駐車により、特定自動運行が円滑に実施できない可能性有
- 広報や看板等による周知のほか、路上ペイントの道路インフラ整備により、路上駐車を減少をはかるもの



収益性確保検証

✓ 収入拡大施策の主な柱は、運賃(企業等連携)、寄付金、協賛金、広告宣伝、視察、貨客混載

1
運賃
(企業等連携)

2
寄付金

3
協賛金

4
広告宣伝

5
視察

6
貨客混載

MaaS事業

MaaS事業について 前年度事業の振り返り

各種交通サービスを統合する①しおじりMaaSアプリの構築、そこから得られる交通関連データの連携・利活用を目的に②モビリティダッシュボードの取組を推進

1

しおじりMaaSアプリ



2

モビリティ・ダッシュボード



MaaS事業についてこれまでの取組状況

2021

2022

2023

アプリ

取組概要

- MixwayWebをフロントにのりーを含めた複合経路検索のプロトタイプを構築
- UniversalLinkで接続



- アンケート・インタビューを通じユーザー別のターゲット像を整理
- 複合経路検索機能を実証し、住民レビューによる効果検証



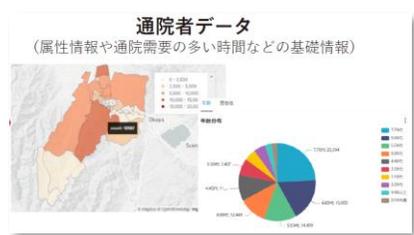
- LINEを活用したシンプルで、地域密着型・現地の交通情報を網羅的に発信するMaaSアプリを構築
- 住民レビューによる効果検証



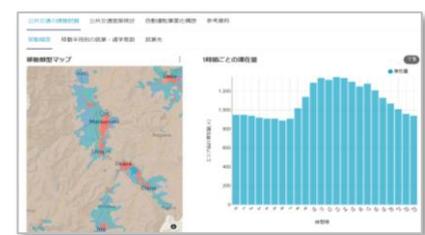
ダッシュボード

取組概要

- 塩尻市職員を想定ユーザーとし、塩尻市から相澤病院への通院に関する移動実態を把握



- 各種移動データをもとに実務で活用するダッシュボードを構築
- 運用モデル構築に向けたアンケート分析(事業面、社会受容性、体制)



- バックキャストによる分析テーマの整理
- MaaSアプリ利用状況の可視化



投入データ

- 交通関係(時刻表、バス停情報)
- 人口データ
- 病院関係データ
 - ・塩尻市在住で相澤病院に受診した患者情報

- 人流
- 地域振興バス
- 地域振興バスGTFS
- 人口データ(国勢調査)
- 施設情報(市内主要施設の住所)
- カープロープ
- のりーと運行

- MaaSアプリデータ
 - ・ユーザー情報
 - ・施設/目的地検索情報
 - ・バス停MAP情報
 - ・マイ時刻表情報など

MaaS事業について 前年度事業の振り返り【アプリ】

コンセプト

地域密着／生活者視点で、公共交通を選択肢に引き上げる
 ✓ 地域密着型でその地域の交通課題に沿うMaaSアプリを展開



施設／目的地情報



複合経路検索



バス停マップ



マイ時刻表



配車

LINEを活用したUI設計

ペルソナ

- 現役／子育て世代
- 観光客
- 関係人口

- 自由に使える自家用車がない現役／子育て世代

- 学生
- 通勤に自家用車を使う現役世代

- 運転に不安がある高齢者

- 日常的に公共交通を既に使っているユーザー

公共交通利用促進のための地域情報発信

機能

- 6つのカテゴリ別に市内の主要施設情報を掲載

- MixwayWebへ遷移しバスや鉄道も含めた複合経路検索

- すてっぷくんの、のりーとのバス停を表示

- 出発地と目的地を設定し当該区間の時刻を手軽に確認

- のりーと予約及びタクシー会社への電話番号を表示

公共交通利用を支える包括的な機能群

効果

- 目的地情報が把握できた
- 公共交通を使ったルートがわかった

- 送迎や通院に公共交通を使ったら短時間でいけることがわかった

- 目的地付近のバス停を確認できた
- 通学／通勤で使ってみよう

- よく使う便を登録できるから調べる手間が削減できて嬉しい

- 都度別のサービスを登録せずに周辺の交通サービスがすべてわかるから便利

MaaS事業について 前年度事業の振り返り【DB】

コンセプト

MaaSアプリの利用状況を蓄積し、ダッシュボードとして日々の利用状況をモニタリングする

1 期間の設定

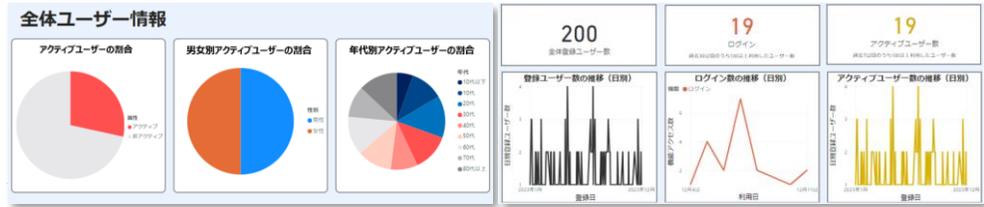
週次・月次でデータ変化を確認し、事業効果を測定



2 全体ユーザー情報

ユーザー情報について分析

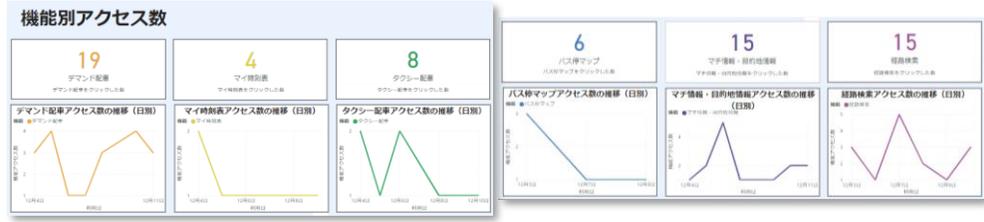
- アクティブユーザー(過去7日間で1回以上利用したユーザー)の男女・年代別割合
- 全体登録ユーザー
- ログイン数(過去30日間で1回以上利用したユーザー)



3 機能別アクセス数

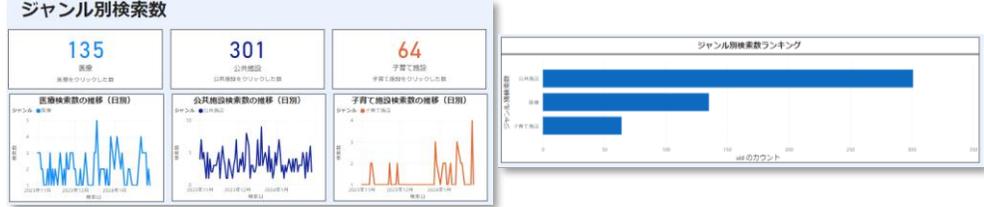
各機能におけるアクセス数を見える化

- のるーと配車
- バス停マップ
- マイ時刻表
- 施設・目的地検索
- タクシー配車
- 経路検索



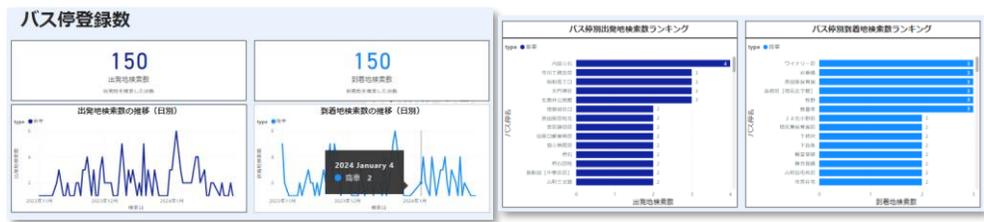
4 ジャンル別検索

施設・目的地検索機能でアクセス数が多い施設をカテゴリ別に分析



5 バス停登録数

施設・目的地検索とバス停マップから経路検索したバス停数を見える化することで、公共交通の移動傾向を把握



MaaS事業について ダッシュボードの活用事例

現状の機能での活用

将来的な発展要素

1 政策立案



- 現状課題に基づき政策を立案し、その実施判断・実施後の効果検証を行う。

例

- 「新たな交通サービスの導入」という政策仮説の検証のため、自動車ODデータ、人口データなどを活用し、導入後の需要予測を行う。

2 事業のモニタリング



- 事業効果を日々モニタリングすることで、高速でPDCAを回し、効果的に事業推進を行う。

例

- MaaSアプリの効果検証
- 段階的にすてっばくん、のーと、シェアサイクルなど複数のモビリティの利用状況をモニタリングし、総合的な事業マネジメントを行う。

3 シミュレーション



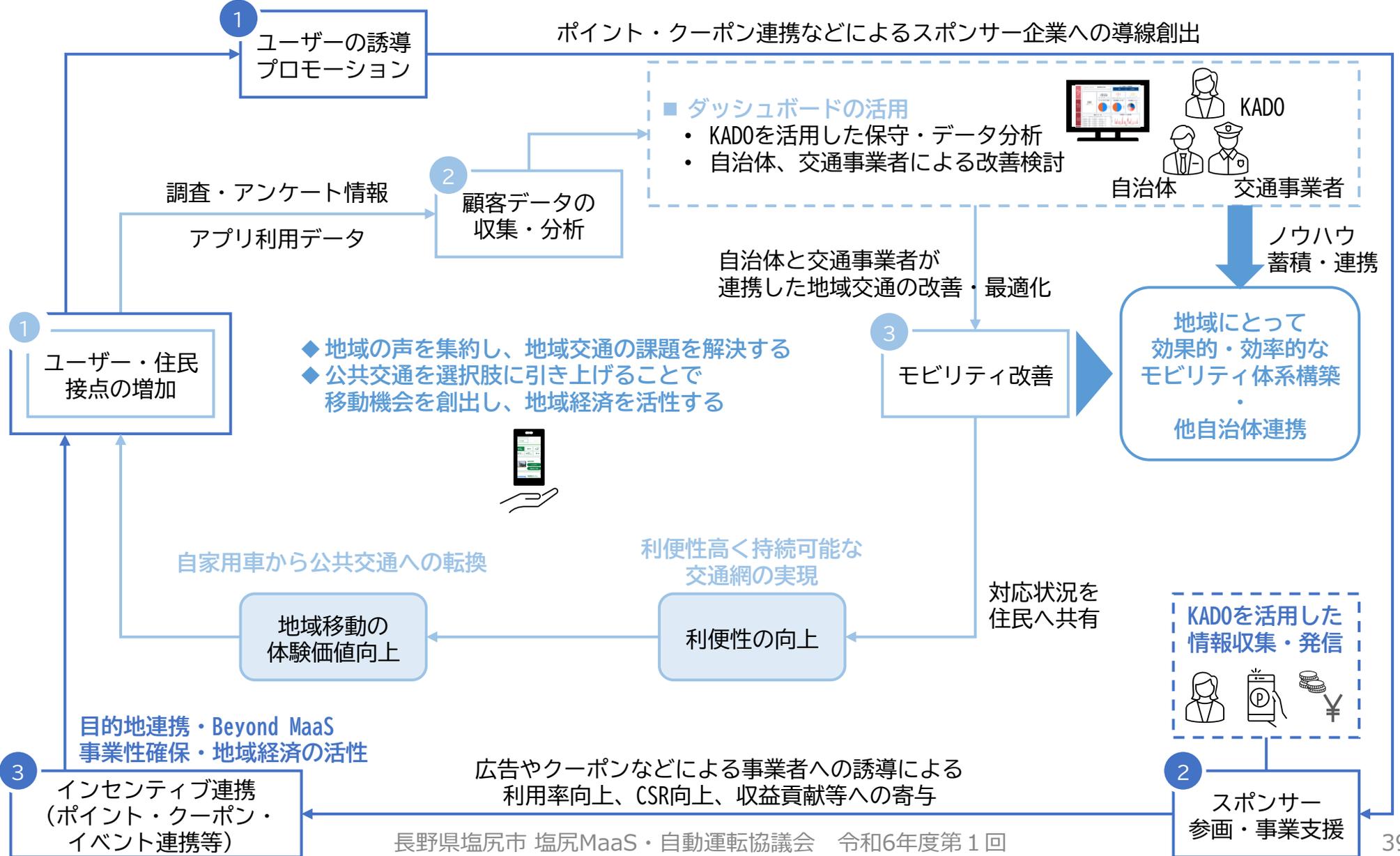
- 変数を入力することで、検討している施策の効果を事前に確認し、政策立案につなげる。

例

- のーと運行エリア拡大に伴う待ち時間
- 自動運転の運行に伴う利用者数等の効果シミュレーション

MaaS事業について 事業概要

◆ アプリを核とした交通DXサイクル



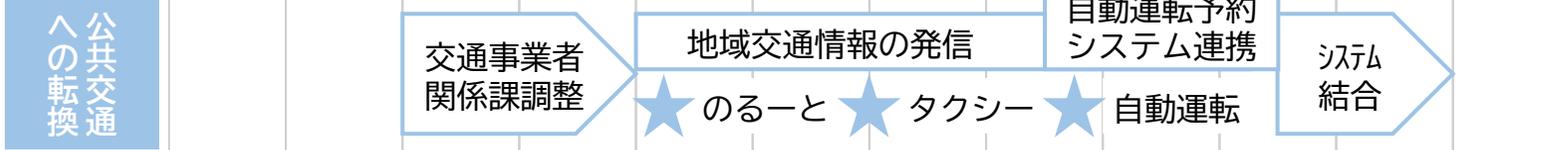
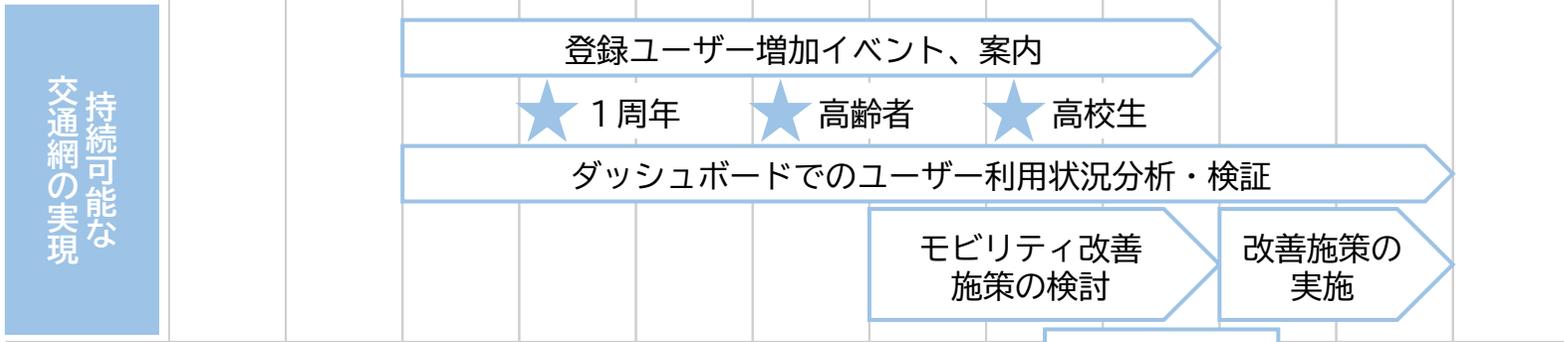
MaaS事業について 事業概要

		24年度			25年度	26年度	目指す姿
		ユーザー・住民 接点の増加	顧客データ 収集・分析	モビリティ改善			
地域交通改善	持続可能な 交通網の実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ プロモーション、 広告方針策定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ダッシュボード の活用 ■ KADOを活用した データ分析保守 座組み構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体主導での 軽微なモビリティ 改善施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自治体と交通事 業者が連携した 軽微なモビリティ 改善施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域課題解決に 繋がるモビリティ 改善施策の実施 	<p>ユーザーの 声を集約し 自治体と 交通事業者 が連携して 地域交通を 改善できる サイクルを 構築する</p>
	公共交通への 転換	<ul style="list-style-type: none"> ■ プッシュ型通知 の活用 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域交通の利用 率向上に向けた 予約システム等 の連携 			
目的の地連携	イベント連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ プッシュ型通知 の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント主催者 へ協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント参加時 のアプリ連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■ KADOを活用した 体系的な地域・ イベント情報の 発信 	<ul style="list-style-type: none"> ■ KADOを活用した 広域的な地域・ イベント情報の 発信 	<p>ユーザーを 目的の地を 繋ぐことで 地域経済の 活性を促進 するととも に事業性を 確保する</p>
	ポイント・ クーポン連携	<ul style="list-style-type: none"> ■ ペルソナマーケ ティング ■ プロモーション 及び広告方針の 策定 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スポンサー及び 参画事業者への 協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ■ スポンサー及び 参画事業者等の アセットを活用 したポイント・ クーポン付与 	<ul style="list-style-type: none"> ■ サービス結合に 向けたシステム 構築 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 結合されたシス テム上でのポイン ト・クーポン 付与 	

MaaS事業について 事業概要 2024FY

◆ ①地域交通を改善し利便性を向上する ②ユーザーと目的地を繋げ地域経済を活性する ふたつのサイクルをまわし、アプリの機能を検証するとともに事業性の確保に向けた実証を行う

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月



今年度ゴール

- 登録ユーザーを増やし移動の選択肢として公共交通を周知する
- 自治体と交通事業者が連携してモビリティ改善に取り組むための仕組みを構築する

- 地域情報を体系的に集約・発信できる仕組みを構築する
- 事業性確保に向けたユーザーを連携企業へ誘導できる仕組みを検証する

MaaS事業について 事業概要 2024FY

◆ 新規登録ユーザー獲得

- 広告プロモーションによるユーザー獲得（自然増）
- イベント（core塩尻との連携、えんぱーく等関連施設との連携）開催による周知
- インセンティブ付与などによる増加率向上

◆ 登録ユーザーのアプリ利用促進

- 公共交通ベースでのアプリの使えるシーン（機能）紹介
- 行き先（目的地）ベースでの公共交通利用促進

◆ 公共交通の最新情報発信による利便性向上

- 公共交通情報のリアルタイム情報発信

MaaS事業について 新規ユーザー獲得

- ◆ 広告プロモーションによるユーザー獲得
 - ・ 関係施設において登録用LINE_QRを常設

SHIOJIRI
おでかけ塩尻ナビ

LINEから簡単登録！

みなさんのお出かけをより
手軽に便利に
できるようにお手伝いします
公共交通をぜひ気軽に
使ってみてください

▼機能紹介▼

バス停マップ

「のーと塩尻」や「すてっぶくん」のバス停の位置が確認できます
「最寄りのバス停の名前や位置がわからない」等のお困り事をサポートします

他にも・・・

- ◆施設/目的地検索
- ◆マイ時刻表
- ◆経路検索
- ◆配車

などの機能を搭載
公共交通の「検索」や「予約」を
便利にできる機能が充実★
イベント情報や地域交通の情報について
週末のお出かけもスムーズに♪

- 駅や観光センターなど「自家用車を利用せずに訪れる場所」を中心に設置を依頼
- バス待合室など「既存の公共交通利用者が訪れている場所」にも設置予定

- ◆ イベント（core塩尻との連携、えんぱーく等関連施設との連携）開催による周知
 - ・ 関係施設において対面でのユーザー獲得、利用説明施策を行う



- core塩尻周年イベントでの様子（2024/7/6）
- 7月末現在登録者118人

MaaS事業について アプリ利用促進

◆ MaaSアプリ一つで現地の交通情報がわかる、二次交通のワンストップポータルへの位置づけ

公共交通でアクセス可能かの確認

経路/時刻表をアプリで確認

実際に配車/予約する

- 移動機会の創出: 地域情報/他産業への拡がり(地域のイベント情報、地域クーポン等)
- 利便性の向上: 公共交通軸での深掘り(のるーとを組み込んだ複合経路検索、デジタルチケット等)

プッシュ通知の機能イメージ



■ プッシュ型通知でイベントを周知。能動的に公共交通を利用するユーザーを把握。



■ 経路案内をクリックすると現在地から目的地までのアクセス方法が表示。

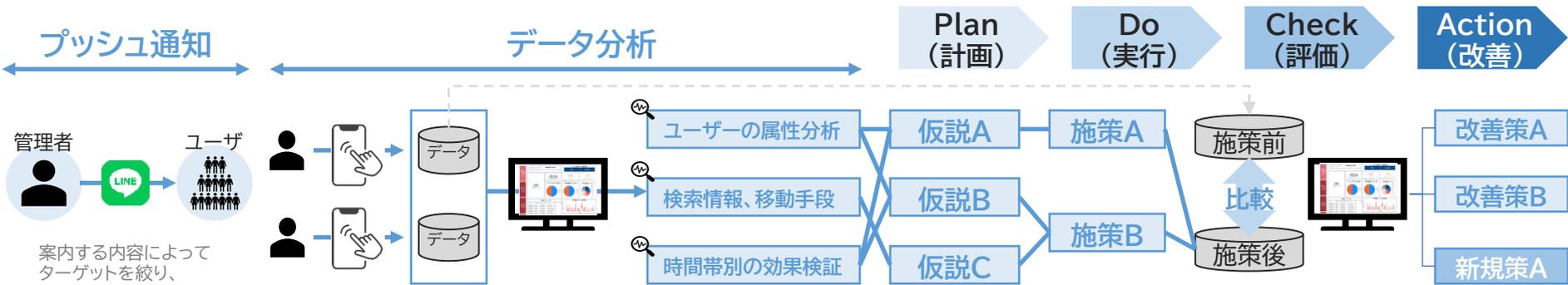


■ 鉄道やバス等ユーザーのニーズに応じたアクセス方法を複数提示。



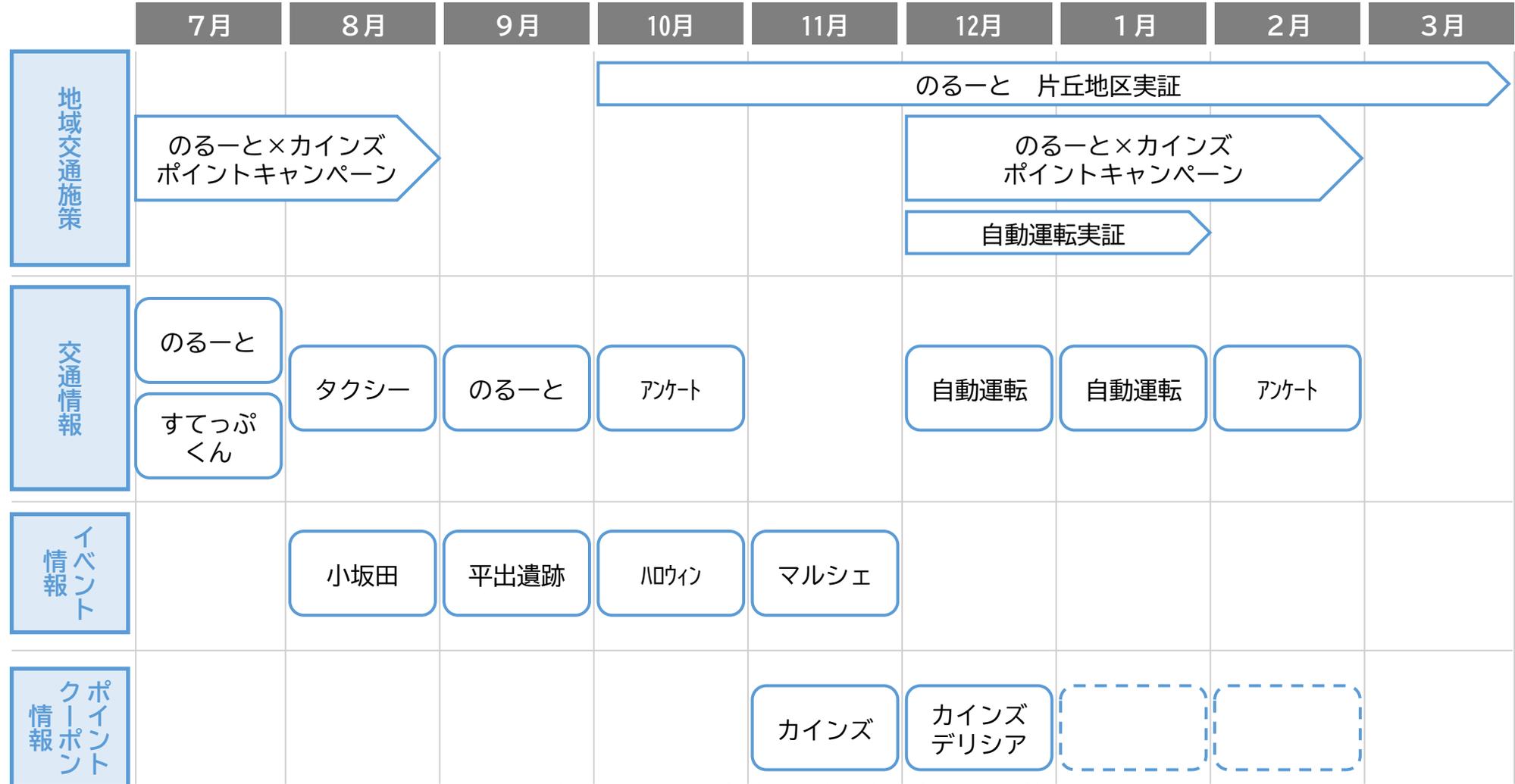
■ アプリ内の案内によりのるーとアプリにも誘導。

データ運用モデル



MaaS事業について アプリ利用促進

- ◆ 地域交通情報を発信することで、公共交通での移動を選択肢として引き上げる
- ◆ イベント・クーポン情報を発信することで、移動機会を創出し地域経済を活性する
 - アンケート、問い合わせフォームで集計した意見をモビリティ改善に活用する
 - 目的地連携を通して住民の移動ニーズを収集し、地域交通の最適化と住民の行動変容を促す

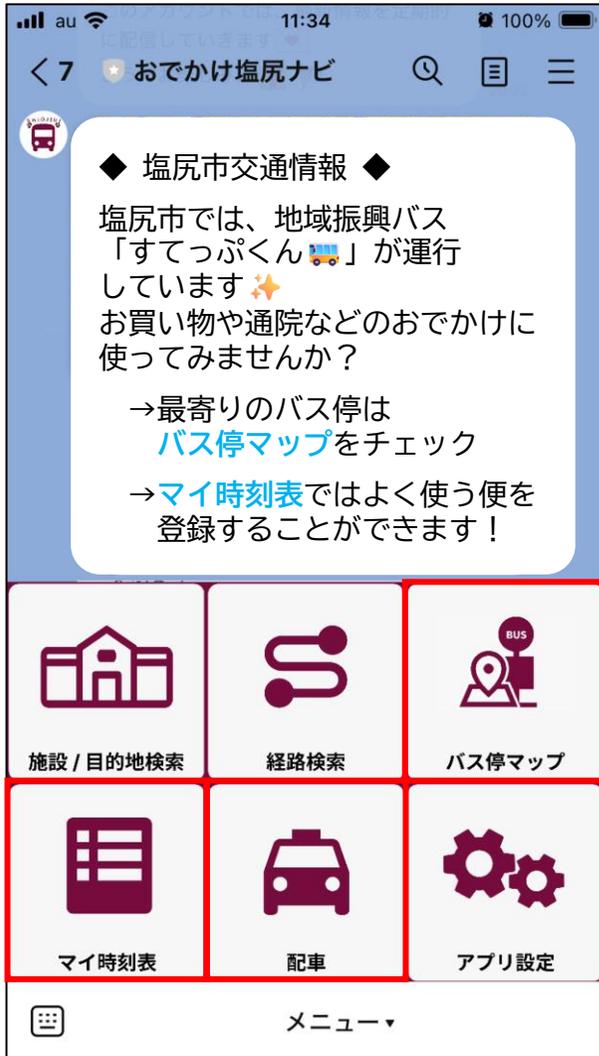


MaaS事業について アプリ利用促進

◆ 公共交通ベースでのアプリの使えるシーン（機能）紹介

- ・所管課やのるーとコールセンターに寄せられるニーズを参考に“構築したアプリが住民ニーズに応えることができるか”、“ユーザーの行動変容を促すことができるか”を検証する

アプリを使って公共交通を利用する



➤ バス停マップ

- ・「最寄りのバス停の場所がわからない」、「のるーとを予約したいが目的地の最寄りMPの名称がわからない」などのユーザーニーズに応える

➤ マイ時刻表

- ・「〇時に●●に行きたいが、何時のバスに乗ればいいのか教えてほしい」などの所管課への問い合わせを減少

➤ 配車

- ・「のるーとの使い方がわからない」というユーザーに向けて予約の取り方などを案内
- ・「のるーとの予約が取れない」などのユーザーニーズに応えるため、タクシーなど“その他の地域公共交通も検索や予約ができる”ということを周知

MaaS事業について アプリ利用促進

◆ 行き先（目的地）ベースでの公共交通利用促進

- ・ 目的地連携施策として利用者が多い施設を中心に“公共交通で行ける”ことを周知することで“外出機会の創出に繋がるか”、“ユーザーの行動変容を促すことができるか”を検証する

移動手段に公共交通を選択する



➤ 施設／目的地検索

- ・ 「市内の観光地や主要な施設を知りたい」、「公共交通を使ったアクセス方法がわからない」などの来訪者を中心としたユーザーニーズに応える

➤ 経路検索

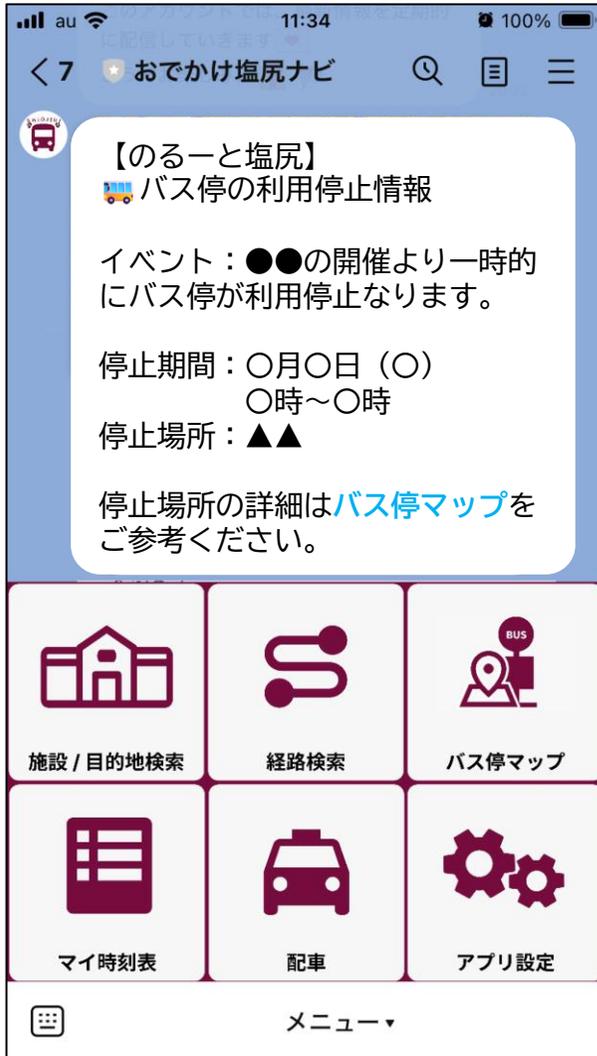
- ・ イベント開催時や日常的に利用者の多い施設、公共交通所管課などに寄せられる「●●に行きたいが、どうやって行ったらよいか」などの問い合わせを減少

MaaS事業について 公共交通の利便性向上

◆ 公共交通情報のリアルタイム情報発信

- ・すてっぷくん、のるーとなどの運行（遅延）状況や予約状況、バス停の利用停止や災害などの緊急性の高い情報を発信することで“ユーザーの利便性向上に繋がるか”を検証する

公共交通の利用時の不満、不安の解消



➤ 発信体制【要検討】

- ・配信を希望する部署・事業者から先端産業振興室に情報提供をいただき、発信
→次年度以降に向けてKADOとの連携スキームも整えたい

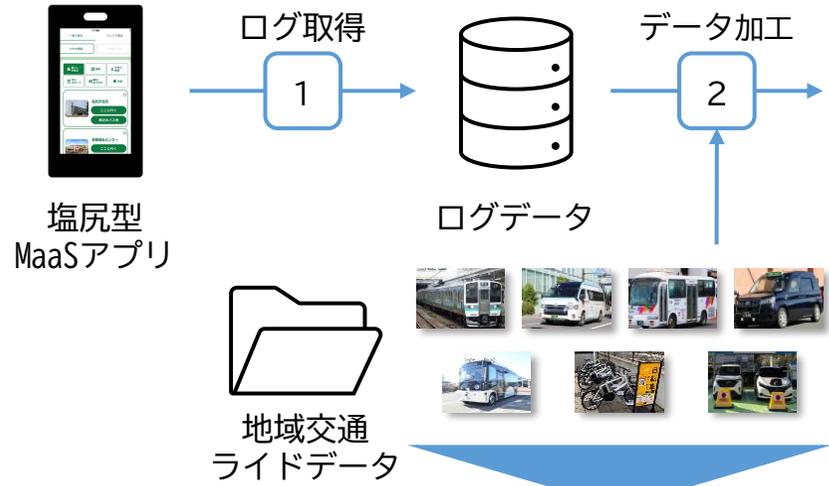
➤ 技術的課題

- ・「のるーと登録者」などに限った発信の可否
→LINE登録時の属性に依存するため、不可
通知が多いとブロックされる可能性もあるため、配信頻度についてはルールを定めるよう継続協議
- ・リッチメニュー上での市HPなどへの遷移の可否
→項目を構築（軽微な作業）すれば可能
“どの情報に遷移させるべきか”を中心に継続協議
- ・バス停マップ上での情報表示の可否
→新規機能としての開発が必要
提供サービスとしての要否を検討

MaaS事業について ダッシュボード 2024FY

- ◆ ユーザーの声を集約し、ダッシュボードで可視化・分析することで地域交通の課題を整理する
- ◆ 課題に基づきモビリティ改善政策を立案し、実施判断・実施後の効果検証を行う
- ◆ 事業効果を日々モニタリングすることで、高速でPDCAを回し、効果的に事業推進を行う

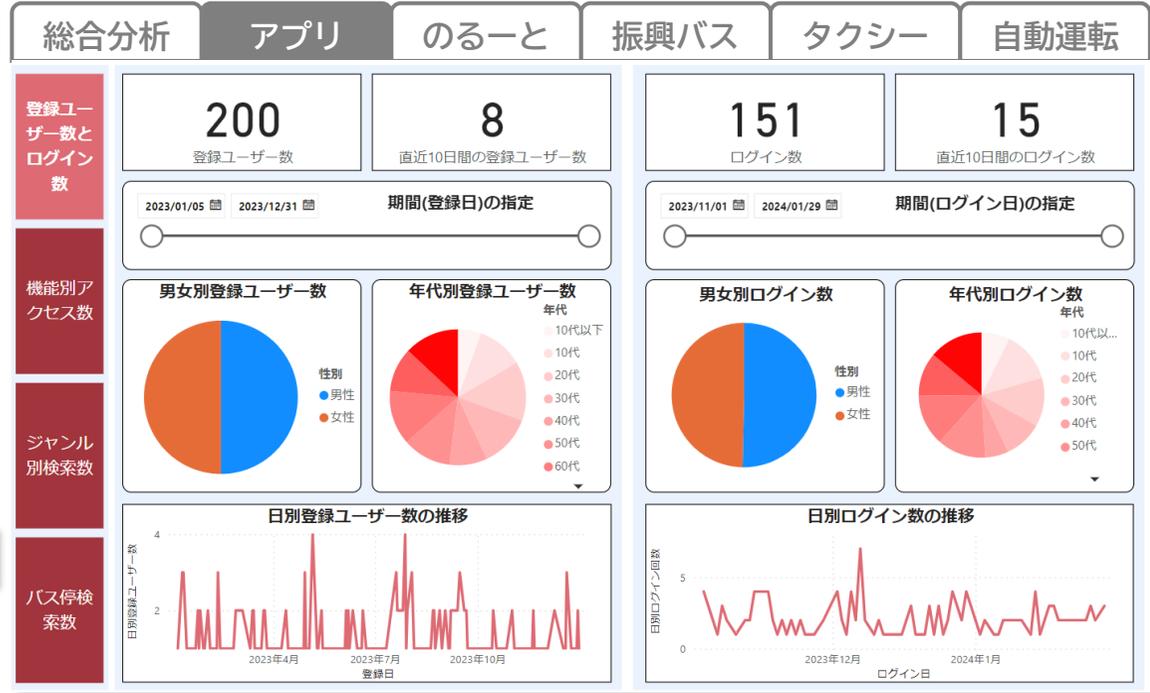
登録ユーザー数
機能別アクセス数など
◆ユーザーニーズ情報



各種ODデータなど
◆実際の移動情報

◆ 日常的な移動をモニタリングすることで潜在的ニーズを可視化し、地域交通を最適化する

◆ アプリを活用した情報発信・目的地連携施策の効果を検証する



自治体・交通事業者が連携したモビリティ改善を総合的にマネジメントする

